

Holger Zellentin (ホルガー・ツェッレンティン) 教授

研究セミナー

イエスと「掟」：新約聖書、タルムード、およびクルアーンにおける律法の確証の問題

(“Jesus and the Law: Confirming the Torah in the New Testament, the Talmud and the Qur‘an”)

2024年2月23日(金) 10:00-11:30

チュービンゲン大学(ドイツ)のホルガー・ツェッレンティン教授に、新約聖書のマタイ福音書において語られているイエス像をテーマとする宗教史の講義をしていただきました。講義では、「私が来たのは律法や預言者を廃止するためではなく、完成させるためである」(マタイ5:17)というイエスの山上の垂訓の言葉を、ユダヤ教の神殿が崩壊した後の時代に生きたマタイがどのように解釈したのかが説明されました。そして、その解釈が古代末期のキリスト教の教父たち、タルムードや『トルドート・イエシュ』などのユダヤ教の文学、そしてイスラームの教典であるクルアーンにおいてどのように受容されたのかが、豊富な事例とともに典型的に示されました。

続いて、レスポンドントの志田が、マタイ福音書のイエス解釈が中世のユダヤ人によるキリスト教論駁書のなかでどのように批判されたのかを例示しました。

ツェッレンティン先生を招へいし、このような貴重な機会を与えてくださった主催者の山城貢司博士(東京大学先端科学技術研究センター研究員)に厚く御礼申し上げます。

文責：志田雅宏